平成２７年１月２８日発行

S.G. Report

No.11

『国を越えて、時代を超えて。自分の可能性の先へ…』

●日　時：　平成２７年１月７日（火）１３：００～１６：３０　　本校４階会議室
●参加者：　SG コース生徒（41 名）および希望生徒、職員
●目　的：　世界を舞台に活躍しておられる方の講演を通して、「グローバルに活躍すること」の意義や、「グローバルな視点」を持つことにより開けてくる視座等を、実体験を通して生徒に提供してもらう。この講演を経て、生徒達それぞれが持つグローバルリーダー像についてのイメージが、より具体的なものになることを目的とする。
●講　師：　岡本尚也　氏（オックスフォード大学 Nissan Institute of Japanese studies、物理学博士、社会企業家）
●プロフィール　鹿児島県で生まれ育つ。慶応義塾大学へ進学・大学院修士課程終了後、博士号取得のため 26 歳でケンブリッジ大学物理学部に留学。ケンブリッジ大学在学中に、筆頭著者として世界的専門誌"Nature Materials"に論文が掲載され、物理学博士号を取得。現在オックスフォード大学で近代日本社会の研究、特に教育社会学を学んでおられる。また、地元鹿児島で「地域で広い視野と実践力によって新しい事業を作り出すグローバル人材を創る」ことを目的とした教育系 NPO 法人を設立中である。

【研修内容】

研修内容

１３：００～１５：００

●自己紹介

鹿児島で生まれ育ち、その環境の中で「こうあるべき」、「こうしていれば大丈夫」と言われて来た事に疑問を感じながら中学・高校時代を過ごしていた。大学進学に伴い上京し、同じ時代でも場所が変われば異なる価値観というものが存在することに気づき、今まで疑問として持っていた感覚が決して間違いではないことが分かる。そして、「外に出よう」と思い立ったが、どうしようか、と考え恩師に相談。その後ケンブリッジ大学へ進学することを決めた。

●ケンブリッジ大学での生活

所属したバレー部を通して、様々な国の人と出会い交流を深めた。1 週間で 1 科目につき 10 冊程度の本を読んで予習して授業に臨むことが前提とされていた。インプットとアウトプットの量が同じだった。自ら考える力を養うことが重要視されていた。

●国を越えて、時代を超えて。自分の可能性の先へ･･･

中学３年生のとき、知覧特攻隊の資料館へ社会科見学で訪れ、価値観が変化。特攻隊の人たちを日本から見たら…？でもアメリカから見たら･･･？
自分の目に見える範囲の事物、情報のみを基準に物事を判断しがちなのではないだろうか？
・自分で考えることの重要性を感じてほしい！
・変化を生む２つのものは、時代と場所（国）である！
・古典や歴史を学ぶのは、昔の人が何を考え、何を思っていたのか知ることができるからである!!学びを積み上げていくことは大切なことである！
・日本の科学の積み上げ→ノーベル賞の受賞に繋がっている

→自分自身を積み上げていくことで「成長・成熟」していく
→時代と社会が変わっても必要とされる個人となる!!
・自分のやりたいことの探し方
→当たり前のことを**違う視点**で見てみる。
・外（イギリス）に出て気づいたこと→当たり前のこと、というのはなかなか気づかない。
→中と外の両方から見なければ、地域を理解することは難しい。
●外の世界に出る、ということの意味って？
イギリスでの日常生活より、日本の方が断然住みやすい!!技術的な面で進んでる!!
→では、日本で学んだほうがいいのでは??現在行われている海外研修、留学（グローバル教育）の意味って？
→日本がもっている経験：戦後、色々な経験をしてきた日本が、外国にそのことを発信することに意味があるのだ!!

１５：００～１５：４０　質疑応答
●日本の大学生／高校生とケンブリッジ大学の学生との違いは？
→自分の軸を持っていて、それを堂々と胸を張って実行する。
自分の言葉を持っている。
●物事を決めるとき「じゃんけん」と「多数決」はとらない。では、どうやって決める？
そのときに求められる力は何？
→基本は議論して決める。イギリス人（欧米）は先手を取るのがうまく、自分のペースで話しをすることが上手い。
トピックセンテンスから、知識と論理で肉付けするから説得力もある。知識が豊富。
●ケンブリッジ大学に行ったら物理学において「天才」「偉人」と呼ばれる人と会えるか？
→会える。活躍中の物理学者とも廊下で会って話したりしている。
日本にもすばらしい人物はいる。でも世界に開かれている、という点ではケンブリッジ大学は良い場所である。
●「目的」は明確に決まっているが「手段」が分からない。どうすればいいのか？
→「目的」がはっきりしているのならば、その道のプロに聞く、インターネットなどで調べるなど、自分にあった方法で。若いうちにいろいろとチャレンジしてみるのも良い。
●なぜ「物理学」から「教育社会学」へ研究の軸を移すことになったか？研究の展望は？
→もともと人間にも物理学にも興味があり、特に考え関わって研究の軸を移そうとしたわけではない。自分の核（武器）となるものを物理学にしようと思い、研究を始めた。『物理学』は面白いし、美しい学問だと思う。日進月歩の学問であり、またあの有名なアインシュタインでさえも間違ったことがある、と考えるとさらに興味深い学問であると思っている。
●講義などで講師の先生の間違いを指摘することは、グローバルな人物に必要なスキルか？日本人が持つ『奥ゆかしさ』、『察する』というものは「グローバル」という場では必要なのか、まったく必要ではないのか？
→確かに外国では間違いがあれば指摘し、それが当たり前の文化である。議論するのも好きである。そういう文化だ。
●日本と仲の良くない国の人たちとの接し方はどうすればよいのか？（韓国や中国など）
→お互いいい気持ちはしないし、両国間の諸問題について意見を聞いても、お互いにとって良くない答えだと分かっているから、諸問題については話題にしない。

１５：４０～１６：１０
●プレゼンテーションの仕方
①アウトラインの提示
②必要な情報はパワーポイントで提示
（自分が分かっていることが他人も分かっていることとは限らない！）
③時間を守る
（与えられた時間内で、伝えたいことを的確に、ポイントを絞って説得力のあるプレゼンを）

④大きな声で、目線は上に！全体を見渡す！
（伝えたいことを伝えるために。同じことでも話す人によって印象が変わる）
→「誰に」「何を」伝えるのか明確に。
聴衆の視覚と聴覚に訴えかけて発表に引き込む。
プレゼンを自分自身が楽しむ！

【今回の講話を聴いて最も印象に残っていることは？】

・大きすぎてもいいから夢を持って、手段を考えるということを聞き、将来を見つめなおす良い機会になりました。（S.O.）

・「学びたい」という意欲があれば、海外の有名大学にもいけるし、もっと学ぶことが出来ると改めて感じました。（H.T.）

・先生の人生の出会いについて、自分の思いを伝えたことで人づてに素晴らしい環境へ進めたことはすごいと思った。（M.H.）

・最も印象に残っていることは、岡本先生が大学に行かれるまでの人生と、大学での様々な人との出会いです。私ももっと視野を広くしてたくさんの人と関わっていきたいです。（N.T.）

・「当たり前」のことにはなかなか気づかないということです。外に出ることによって、今自分が置かれている状況のありがたさが分かるのだろうなと思いました。（A.T.）

・研究用のPCでゲームをしているような人でも、賞をもらえるような論文を書ける人がいる。日本人のように枠にとらわれる考えではなく、自由な発想で研究をできる環境があるという話が印象に残っています。（Y.H.）

【講演を聴いてもっと知りたい、もっと学びたいと思ったことは？】

・一見、違う分野に見えることでも、それぞれの分野の可能性を広げるかもしれないので、様々なことをもっと学んでいきたいと思いました。積極的に学ぶ姿勢を岡本先生から学びました。（C.I.）

・国によってはテレビなどで見た情報のイメージばかりで判断してしまうと思ったので、様々な国について、多くの立場から知りたいと思いました。（A.K.）

・講演で自ら発言することの大切さを知った。講演中、発言する機会があったがすることが出来なかった。これからSGコースに進むに当たって、自分の考えをしっかり持って発信していきたい。（M.H.）